

TGM

合わせ切断機導入 堅調

サイト拡充し動画でも紹介

TGM(東京都千代田区、弘中崇社長 03・6261・1260)

は、イタリア・ポッテロ社製の合わせガラス切断機「548LAM」を販売している。ポッテロ社の製品ラインアップの中でもベストセラー機で、改良してシリーズ最高の生産性と省人化を実現。日本市場でも堅調に販売を伸ばしている。革新的なヒーティングシステムの採用で消費電力を大幅に削減し、サイクルタイムを短縮。新自動回転システム(NC制御)の採用でガラスの回転が正確でスピーディーになり、オペレーターの負担が大きく軽減する。ポッテロ社は「548LAM」以外にも複数の合わせガラス切断機をラインアップしており、客の生産性、省人化のニーズに合わせて最適な製品を提案する。同社はコロナ禍で対面での説明が難しい中、ウェブサイトを拡充。各種加工機を詳しく解説するとともに、ガラス加工の様子を動画で紹介し、製品PRに努める。

シリーズ最高の生産性と省人化

合わせガラス切断機「548LAM」はシリ

ーズ最高の生産性と省人化を実現した。従来の合わせガラス切断機からの改善点は①革新的なヒーティングシステムの採用で、大幅な消費電力の削減、サイクルタイムの短縮が可能②新クラッピンシステムの採用で、ガラスへの均一かつスムーズな圧力分散が可能となり、ガラスへの過度なストレスの削減が可能③新自動回転システムの採用で、正確でスピーディーなガラスのポジショニングが可能④自動20ミ耳取り、スクラップサイクルの採用で、完全自動の耳取り、スクラップサイクルが可能になった。

ポッテロ社はガラス加工設備のワンストップサービスを目指し、切断機を中心に、面取り機、NC変形加工機の他に、合わせガラス製造設備、自動倉庫システムなど、さまざまな加工設備を提供する。年間の設備販売台数約1000台のうち切断機が半分の約500台を占め、切断機の販売で世界ナンバーワンを誇る。国内でも400台以上の設備の販売実績を持つ。

日本では労働力確保の問題から自動化、省人化が求められており、事務所などで作成した切断データーをガントリーシステム、シャトルシステムと送し、採板・切断までを自動でする加工設備の導入が進んでいる。合わせガラスの需要が増大したことから合わせガラス製造ラインの販売が堅調で、同様に加工データーを製造ラインに自動転送することで、現場作業を最小限にする合わせガラス製造ラインも提供する。

ガラス切断機のパイオニアとして①切断機にレーザーマーキング機能を装備し、切断とレーザーマーク打ちを同時に切断工程で実現②切断機にラベル貼付機能を装備することで、切断とラベル貼りを切断工程で実現③切断ダブルブリッジの採用で切断効率が大幅に向上④合わせガラスの異形切断機能を開発—といった他社に先駆けた新しい技術を展開している。



イタリア・ポッテロ社の合わせガラス切断機「548LAM」



TGMのウェブサイト動画を紹介